三徳開教110年

平成30年
11月号
No.589

法音

今月のご法話

運命は自分から作り、幸福は自分から求めるもの②

日蓮宗
法音寺

三徳開教110年

知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音　平成三十年十一月号［589］

■目次■

【信仰の指針】積善（しゃくぜん）　心は晴れやかですか …… 1
【朝のこない夜はない】
運命は自分から作り、幸福は自分から求めるもの②
山首　鈴木正修 …… 2
■講日のご案内 …… 13
■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください …… 13
■法音寺からのご案内 …… 14
■まんが・六波羅蜜のお話 …… 16
■六波羅蜜は凡夫が仏になる菩薩修行 …… 17
■とこのはの記　長者と息子の話 …… 25
■のりのね体験　いま・昔 …… 28
■のりのとも　西に東に　転法輪・支院だより …… 32
■福祉に生きる　小原安立・ケアハウス高浜安立・養護老人ホーム高浜安立の実践 …… 36
■日本福祉大学　ベトナム・ハノイ大学と大学間連携協定を締結 …… 66
■賛助員ご芳名 …… 76
■幸せの種まき／編集後記 …… 78
■連載まんが・ひまわり・70　ありがとう …… 80
■書籍のご紹介 …… 81
■法音寺の社会福祉・教育事業 …… 81

表紙題字・信仰の指針　山首上人さま　書　**表紙写真・ランタナ**

掲載写真　表紙・信仰の指針・3～13頁：梅田雅臣氏撮影
2頁：加納将人氏撮影

信仰の指針

積善（しゃくぜん）

心は晴れやかですか

日教区

キキョウ

朝のこない夜はない

山首　鈴木正修

運命は自分から作り、幸福は自分から求めるもの②

今月は10月号の『陰騭録』のお話の続きです。

少し話が前後しますが、袁了凡の了凡という名前は、善行の誓いを立てた時に旧名、学海から改名したものです。この名前は〝凡夫を終了する〟という意味です。〝凡夫を終え、徳の人として生きていく〟という決意の表れです。袁了凡は善行の誓いを立ててから、緊張して、良い意味でビクビクし出したのです。どうしてかというと、それまでは〝人生は決まっているものだ〟と思ってのん気に暮らしていたのですが、ここに至って〝自分の

行いを諸天善神が見ておられる〃と思ったら、緊張してうかうかしてはいられなくなったのです。一日として疎かにはできないという心境になったのです。

「慎独」という言葉があります。四書の一つ『中庸』に「君子はその独りを慎むなり」とあります。〃独りでいる時、誰も見ていない時でも諸天が見ておられると思って、自分の行いを慎む。誰も聞いていないと思っても、諸天が聞いておられると思って発する言葉に気をつける〃ということです。この慎独を袁了凡は始めたのです。

最初の三千点の善行を完了した袁了凡は次に奥さんと一緒に、子どもが授かることを願って新たに三千点の誓

いを立てました。すると、翌年には男の子が産まれ、天啓と名づけました。

袁了凡は一善事を行うごとに、いちいち帳面に記録していましたが、奥さんは字が書けなかったので、一善事を行うたびに暦の上に赤丸をつけました。貧しい人に施しをしたり、生きた鳥や魚を買って放してやったりして、一日のうちに十個以上も赤丸をつけることもあったといいます。

似たお話が日本にもあります。江戸時代、長州藩の儒学者で、漢方医でもあった滝鶴台という人がいました。この人の奥さんの話です。

ある日、滝鶴台が書斎で勉強している時、奥さんがお

茶を持ってきますと、袖から赤い毛糸玉が落ちました。滝鶴台が「それは何だね」と尋ねると、奥さんは「お恥ずかしい。これは少しでも罪障を作った時には、私は赤い糸を玉に巻いているのです。実はもう一つ玉を持っています。善いことをして徳が積めた時には、白い糸を玉に巻いているのです。最近になってようやく白い玉の方が大きくなりました」と言って白い毛糸玉を見せました。それを見た滝鶴台はとても感心したというお話です。

袁了凡は夫婦で一丸となって善行に励み、今回は四年目にして三千点を完了することができました。この時も大勢の上人方を招いて家で先祖の回向をしました。

そして、袁了凡は進士の試験の合格を祈願して、夫婦

で一万点の善行を誓いました。袁了凡はこの試験にも受かり、宝坻県の知事という高い位の役人に任命されました。その頃には、「治心篇」と名づけた帳面に自分の行う善悪をすべてつけていました。毎日、夜になると、庭に机を出し、香を焚いて、その帳面を広げ、諸天善神に報告をしていました。ある日奥さんが、「最近は地位の高い役職になり、役所の中で暮らしているものだから、人と接する機会も少なくなって、あまり徳が積めませんね」と言って悲しそうな顔をしました。

その晩、袁了凡は夢を見ました。その夢の中に神さまが現れたのです。袁了凡は「せっかく一万点の善行を誓ったのに、なかなか成就できません。どうしたらよろしいでしょうか」と尋ねました。すると神さまは「もしお

前の糧一節を減じたならば、一万の善行も一時に成就するであろう」と告げました。「糧を減ずる」とは、「税金を減らすこと」です。当時の税金はお米ですが、それを減らすということです。それにともなって袁了凡の収入も減るということです。そこで袁了凡は税金を大幅に減額しました。これぐらいのことで本当に一万点の善行が成就されるのだろうかと思っていると、折よく五台山の幻余禅師という高僧がやって来られたので、袁了凡はこれで本当に良いのかを尋ねました。幻余禅師の答えは「善心が真実からであるならば、一善行と言えども万善に相当するものである。まして、全県下の糧一節を減らし、万民が福を受けるのであるから、疑う余地はない」というものでした。

袁了凡夫妻は、その後、一万点の善行を完了し、かねてから俸給を節約して貯蓄しておいたお金で、五台山において一万人の僧にご供養し、先祖の回向をしました。

袁了凡の『陰騭録』は息子・天啓に語ったものです。袁了凡がこれを書いた時、六十九歳でした。「立命の学」の結びで次のように語っています。

「天啓よ、私はいろいろなことを誓願して善行を重ねてきたが、寿命長久の祈りはしたことがない。それなのに孔老人から五十三歳で死ぬと言われた自分が、六十九歳になっている。功徳はありがたいものだ。

聖人は、善を作せば天これに百祥を降し、不善を作せば天これに百殃を降すといい、また禍福は己より求めざ

ること無しという。これらは自分の行いによって禍福が決まるということである。聖賢の言葉は正しい。私自身が体験し味わったことである。一点の疑いもない。父を信じて善行を力行せよ。そしてどんなに高位高官となり、人から敬愛される身となっても謙虚でいるのだ。ただ謙虚のみ福を受けるのである。日々に己を反省し、過ちを改め、積善につとめよ。ぐずぐずしていては人生が終わってしまう。雲谷禅師が授けてくださった立命の説は、極めて正しい道理である。一所懸命に行い、日々を空しく過ごすことがあってはならない」

「立命の学」は単なる袁了凡の立身出世の物語ではありません。これは一人の稀有なる人物の積善の記録であり、

一生をかけた人格陶冶の貴重な体験です。

『陰騭録』の解説書は現在、何種類も出ていますが、その中の一つに浄空法師という方の書かれた物があります。その中に〝修行が進むとこういう風になる〟という話が出ています。

印光大師という高僧がかつておられたそうです。この印光大師が住んでいた部屋には蚊・ハエ・ノミなどがいて、弟子達がそれらを追い出そうとしましたが、印光大師がそれを止めて、「そうする必要はない。彼らがいるということはまだ私の修行が足りていないということだ。徳行をもって彼らを感化することができていないのだ。

だから追出してはいけない」と言ったそうです。そうして、印光大師が七十歳を過ぎる頃になると、不思議なことにそういう虫は一匹もいなくなったそうです。浄空法師は今、オーストラリアに住んでいるそうですが、住み初めの頃は印光大師のように家の中に虫がたくさんいたそうです。

それが、雲谷禅師の功過格にあるように小さな虫達の命も愛惜し、修行が進むにしたがって、虫達は、家の中に入ってこなくなったそうです。この後、虫だけでなく花や野菜にも心が通ずるようになったそうです。

私達も徳を重ねて人格陶冶に励みましょう。次回は第二章「謙虚利中」です。

（次号につづく）

良い教えの話を聞きましょう。
全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。
是非講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。
法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

❖今月の山首上人さまご親修日程

一宮支院	11月4日(日)	岡山支院	11月10日(土)
四日市支院	11月13日(火)	安城支院	11月18日(日)
関支院	11月23日(金)	大阪支院	11月24日(土)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2－37－3	☎〈052〉581－2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎〈0587〉53－5436
東京支院	4日・18日・24日	東京都練馬区谷原2－6－37	☎〈03〉3904－1251
山形布教所	12日	山形市長町2－4－6	☎〈023〉681－0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4－7－3	☎〈0538〉32－6625
豊川支院	20日	豊川市中野川町1－26－3	☎〈0533〉86－4704
安城支院	8日・18日・28日	安城市新田町小山31－25	☎〈0566〉76－2504
明川支院	12日・24日	豊田市明川町堂ノ脇1－2	ご連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	4日・10日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎〈0567〉32－1825
一宮支院	4日・15日・25日	一宮市大江1－7－4	☎〈0586〉72－7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎〈0568〉22－5813
岐阜支院	4日・14日・23日	岐阜市切通7－15－22	☎〈058〉245－2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎〈058〉388－2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎〈0584〉78－4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2－15－11	☎〈0575〉22－0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀213－2	☎〈0575〉23－3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7211－3	☎〈0575〉65－3933
四日市支院	2日・13日・22日	四日市市赤堀2－4－7	☎〈059〉352－3633
上野支院	1日・10日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎〈0595〉21－0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎〈075〉231－3437
高槻支院	4日・21日	高槻市天神町1－9－2	☎〈072〉685－1003
大阪支院	11日・24日	大阪市此花区西九条3－4－41	☎〈06〉6465－5051
福井布教所	17日	あわら市春宮3－28－2	☎〈0776〉73－5234
和泉支院	4日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎〈0724〉66－3112
神戸支院	10日・21日	神戸市兵庫区五宮19－17	☎〈078〉360－4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎〈0799〉42－0175
岡山支院	7日・10日・23日	岡山市南区若葉町1－16	☎〈086〉262－0818
高知布教所	12日	高知市上町5－5－39	☎〈088〉823－1983
福山支院	1日・18日	福山市西町3－19－5	☎〈084〉921－3078
三原支院	10日・25日	三原市皆実2－9－22	☎〈0848〉62－5087
安芸津支院	4日・18日	東広島市安芸津町三津3765－3	☎〈0846〉45－4012
坂　支院	10日	広島県安芸郡坂町坂東2－24－12	☎〈082〉885－1064
福岡支院	4日・15日・18日	福岡市早良区城西2－11－37	☎〈092〉821－7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎〈0920〉44－5445
筑後布教所	11日・25日	筑後市大字西牟田5954－1	☎〈0942〉53－7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和15021－1	☎〈0964〉58－0742
田川支院	11日・25日	田川市春日町7－30	☎〈0947〉42－1819
名古屋地区	7日・11日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3－3	☎〈052〉831－7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2－20	☎〈0561〉85－6860
亀岡布教所	12日・25日	亀岡市篠町篠牧田73－1	☎〈0771〉25－7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。（掲載順不同）

幸せを育てる漫画『ひまわり』
待望の単行本化！

月刊法音で連載中の漫画『ひまわり』の第一巻。

こんなとき、蓮くんたちは、どうしただろう？
読者の成長とともに、新たな発見があります。

監修／鈴木正修　　作画／竹中 淳

すずき出版 刊　定価 1,000 円(税別)

法音寺のパンフレットができました

多くの方に法音寺を知っていただくために
お使いいただけます。

掲載内容

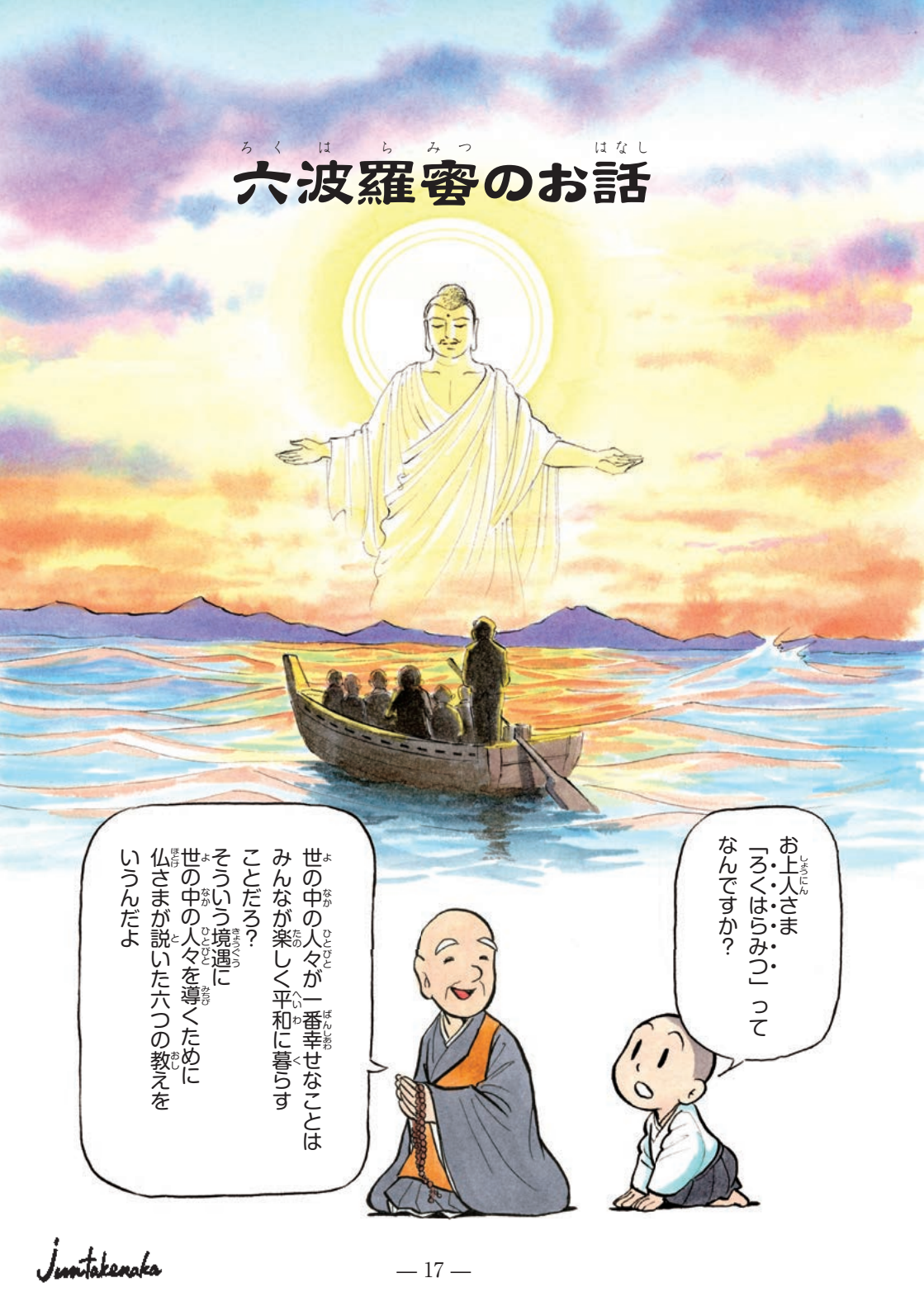
心に寄り添うお寺と仏教 … 仏教とは？ お寺とは？
信仰と福祉のお寺 … 法音寺の理念・歴史のご紹介
仏教福祉と社会貢献活動 … 福祉事業・教育のご紹介
法音寺とのお付き合い … 年間行事・日々の活動・供養のこと
法音寺のご案内 … 支院一覧・関連書籍・ホームページ等

あなたも法音寺メールマガジンに登録してみませんか？

このたび法音寺では新たなメールマガジンの無料配信サービスを開始することになりました。毎週火曜日の朝７時に、山首上人のみ教えや毎月の予定、人にやさしく生きていくための コツなどを配信します。

メールマガジン登録フォームはこちら ▶▶

六波羅蜜のお話


お上人さま「ろくはらみつ」ってなんですか？
世の中の人々が一番幸せなことはみんなが楽しく平和に暮らすことだろ？そういう境遇に世の中の人々を導くために仏さまが説いた六つの教えをいうんだよ

六波羅蜜

5 禅定（ぜんじょう）

人の心はとても
油断しやすいもの
心をおちつけて
正しい道に進む
覚悟を定めることです

人は自分を取り巻く状況が
苦しくなってきた時
知らず知らずのうちに
わがままになったり…

先輩
部長がいないからと
いって早く帰って
いいんですかぁ

まだ仕事が
残ってますよ

毎日毎日
おそくまで
やってられっか～
じゃあな

まったく
いやな仕事ばっか
オレに
回しやがって

なんだって
んだ

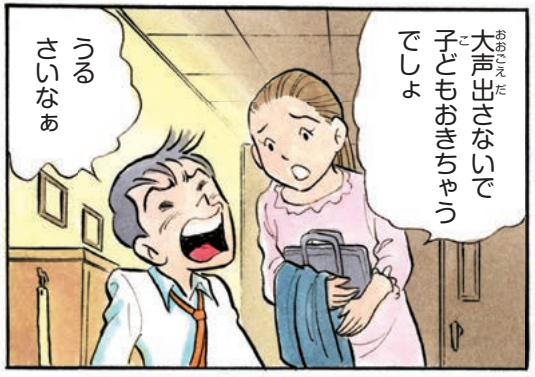
怠ける心、貪りの心を
おこし　怒りを生じ
あるいは愚痴、不足を
いうようになりやすい
ものです

なによ！
こんなに
酔っぱらって…

自分の金で
呑んで　なにが
悪い！

大声出さないで
子どもおきちゃう
でしょ

うる
さいなぁ



このように
ただ自分だけの
ことしか考えない人は
周囲の人から嫌われ
世の中に
必要とされない人と
なってしまいます
貪り・瞋り・愚痴といった「煩悩」は、
このようにあらわれやすいものです
だれも見て
ないよ
サボッ
ちゃえよ
一日くらい
いいじゃん
うる
さい！
こういった「煩悩」に
正面から向きあわねばなりません
これは私に
与えられた
修行、試練だ
そして
その「煩悩」に打ち勝った時
〝自分自身に厳しく 他人に優しい〟
人に成長できるのです
その仕事なら
ボクに
まかせて！
やっとくよ

そして一日を終えた後
その修行ができたかどうか
必ず反省することが大切です

よく実行できた時は
仏さまに感謝し
誤ったことや迷いの心が
あった日には
二度とそれを
繰り返さないように
しましょう

自分の心の向上、発展も
家族、社会の繁栄も
この禅定の修養によって
進んでいくのです

六波羅蜜 6 仏智

人は毎日考えながら
生きています
「人が喜び、
自分もうれしい」結果が
得られるように
考えていくのが
仏智の働きです

台風は日本海海上で
温帯低気圧に
変わりましたが
日本列島に
大きな爪あとを
残しました

台風行っちゃって
よかったね
週末は約束どおり
遊べるな

それが…
遊べなく
なっちゃった
んだよ
ごめんよ

きのう
キミの家は停電
しなかった？
ああ
少しの間ね

となりの町は
全域未だに
停電なんだって

おまけに水道・ガスが
使えず　避難生活してる人が
何千人もいるんだそうだ

そんな不自由な生活で
困ってる人のことを
考えたら　じっとして
いられなくてね
明日から
ボランティアに
行こうと思うんだ

そうだ！
キミも
ボランティアに
参加しないか？
え？
…
ボク…
…
電気・ガス・水道が
使えず困ってる人
のこと考えたら…
ザバ…
じっとして
いられなくてね
キミも
ボランティアに
参加しないか？
どんな人にも
仏性があり
自分だけではなく
みんなが楽しく
暮らせたらよいと
だれもが思って
います
もしもし
こっち
こっち!!

来てくれたんだ
ありがとう
うれしいよ
被災地支援中
社会福祉協議
どこから手を
つけていいやら…
助かるよぉ～
お兄ちゃん達
ありがとうね
ありがとう
誘って
くれて
ありがとう
こんなに喜んで
もらえるなんて
思わなかったよ
人はお互いによい智慧で
どうすれば正しい心を
自分だけでなく
人にも勧められるかを考え
喜び合って　正しい道に進む
智慧を磨いていくことが
大切です
災害

六波羅蜜は私達が幸せになるための
修養徳目です

この修養が自然に行われ
人を助け救うことができるようになれたなら
仏の境遇に近づき
いつかきっと彼岸に達することができるでしょう

おわり

六波羅蜜は凡夫が仏になる菩薩修行

私達は誰もがみな仏性（仏の性質）を具えています。つまり、私達がこの世に生まれて来たのは、仏の子として法華経を体得し、悩める人を救うためなのです。

仏さまの智慧には、一切智、道種智、一切種智と言われるものがあります。

「一切智」は、凡夫の心の動きや思想がよくわかる智慧。「道種智」は人々を仏の道に導く智慧。「一切種智」は法華経によって人々の煩悩を滅する智慧です。

この仏さまの智慧（仏智）をもって〝一人でも多くの人々を救いたい〟という心掛けで施し（布施）をすれば、必ず大きな功徳を積むことになり

ます。

〝何としても救いたい〟という心があると、仏さまの教えを信仰する自分が戒を持って自らを律する（持戒）のは当然のことです。常に善い行いを実行し、怒ったり、愚痴を言うことはなくなるに違いありません（忍辱）。なぜなら、仮に誰もその姿を見ていなくても、仏さまがご覧になっていると知っているからです。また、自分がこの世に生まれ、生かされているのは、仏さまからいただいた〝この世で果たさなければならない（悩み苦しむ人を救うという）使命〟があると知っているからです。

私達の命はいずれ必ず尽きます。いつその日が来るのかは誰にもわかりません。そのように考えると、一日も無駄にはできません（精進）。

大勢の人々を導くためには、日々自分の行いを反省し、心を落ち着けて心を正しく整える（禅定）ことが必要です。つまり、六波羅蜜（布施・持

戒・忍辱・精進・禅定・仏智）は別々に存在するのではなく、仏智を基礎としてすべてが関連し合っているのです。

日々、自分がいる場所で六波羅蜜の修養を心掛けていきましょう。この修養が自然に行われるようになると、毎日が楽しくなります。そのうちに「あの人は仏のような人だ」と周りの人々から言われるようになります。喜びの心で六波羅蜜を自然に行い続けることのできる人が仏なのです。

「彼岸・六波羅蜜」について、詳しくお知りになりたい方は、『到彼岸』という施本（写真参照）をご覧ください。

とこのはの記

長者と息子の話

ある国に父親と息子が暮らしていました。ある日、息子は家出をし、諸国を流浪します。父親は財宝をたくさん所有する大富豪でしたが、息子は、その日の食べ物も手に入れることができない程生活に困っていました。その息子は、流浪の果てに故郷の自宅の門前に来ましたが、そこが自分の家であるとはわかりません。一方、父親は

ひと目でそれが息子だと気づきます。召使いに命じ、連れて来させようとしますが、息子は捕らえられると恐れ、失神してしまいました。

父親は考えました。そして一旦息子を放してやり、召使いにも息子と同じような粗末な身なりをさせて近づかせ、「良い仕事があるから一緒に来ないか」と誘わせたのです。召使いは息子を探し出し、話をして連れてきました。

父親は、息子に家じゅうで最も汚い仕事をさせました。そして、自分も粗末な身なりで仲間に入ります。息子は熱心に仕事をし、すさんだ性格も次第に良くなっていき

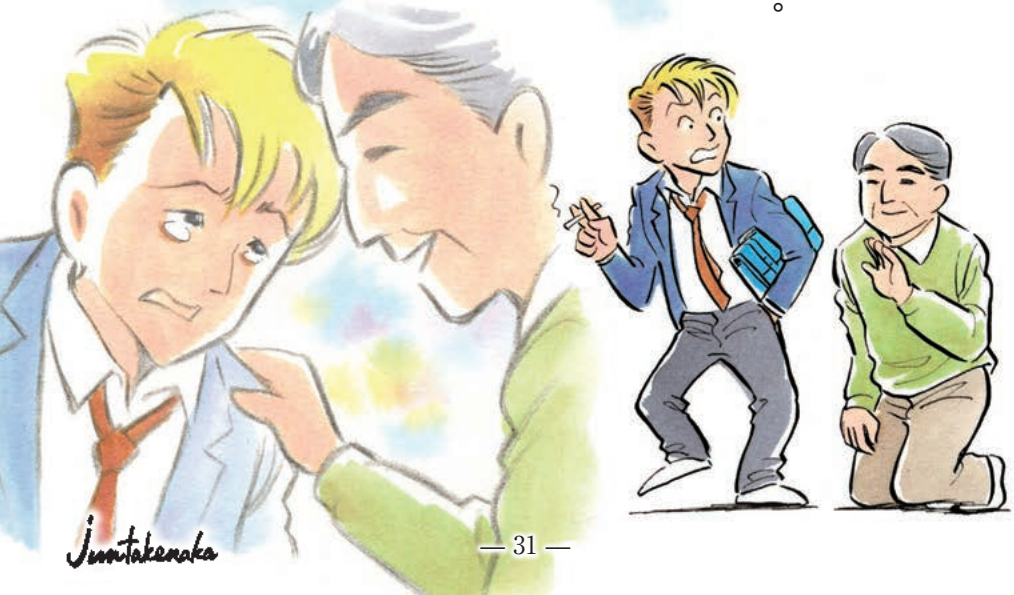
ました。

息子が家の仕事をほとんど覚えた頃、最後に一番重要な財産を管理する仕事を与えました。息子は一生懸命に取り組み、充分に勤めを果たしました。父親は、息子をここまで勤め上げさせると初めて親類・縁者を集め、実の子であることを打ち明け、財産の一切を譲ることを伝えます。

これは法華経・信解品第四の中に登場する譬え話です。「父親」は「仏さま」を、「息子」は「無智の人」を指しています。実家と知らずに戻って来たのは「仏の教え

に縁があった」ということ。縁があるとはいえ、無智の人にいきなり法華経を説いても、驚かれてしまいます。強引に教えようとするのは仏さまの本意ではありません。仏さまは常に、私達一人ひとりの身になって考え、教化されるのです。その教化によって、家の中（仏法）を知り、一番重要な宝の蔵をも管理することができるようになり、ついにはそれを譲られるに到ったのは、法華経の実践を通して仏の境遇に到達したということです。

私達も、常に相手の目線に立ち、ともに考え、ともに行動し、ともに喜び合って、相手の人を仏さまの教えに導きたいものです。



のりのね体験　いま・昔

迷えば悪人、悟れば善人

名古屋　西築港　廣中　亀次（昭和9年　出世の栞44号）

私の長男が鉄道駅手に志願しました。二十五名採用されるのに一千八百人の志願者があると聞きましたが、せっかく志願しましたので合格させたいと思うのはどこの親も同じだろうと思います。あまりにも志願者が多いので、心配のあまり会長さまにお尋ねいたしました。会長さまは「油断をしてはなりません。あなた方両親もまた本人も、今までより一層心を広くして、堪忍第一に精神修養をなさい。『祈らずとても神や守らん』と言って、神仏のご加護を受けられるように精神修養なさるなら大丈夫です」とおっしゃいました。二月二十三日には学科試験でしたが、幸い合格しました。三月一日は口頭試問でした。私も心配してはならぬと思いましたが、試験場までついて行き、外で一心に妙法を唱えておりました。

午後二時三十分に試験場を去り、しばらく会っていなかった知人宅に二時間程立ち寄り、六時三十分頃帰宅しました。すると妻は「あなたは何時までどこに居ったのです」と飛びつくように申しました。私は遅くなった理由を言い訳しました。長男も「意外に良い成績で珠算は試験官よりほめ

られるほどで、まず合格と思える」とのことを聞き、やっと安心いたしました。

夕食を始めようとする頃、妻は急に腹痛をもよおし、嘔吐する、下痢する、寒気がするというわけで大ごとになってしまいました。妙法を唱えて、さすってやってもますます苦しみます。その苦しい中、妻は「私の心遣いが悪かったため、一度会長さんにうかがってみてください」と申します。早速おうかがいいたしますと、「それは堪忍と悦びが足らぬからだ」とおっしゃったのです。このことを妻に伝えますと、「悪かった。会長さまにお願いをしてむずかしい試験にも合格させていただいたのに、それをありがたいと思わず、あなたの帰りの遅いことになぜ腹を立てたのでしょう」と深く懺悔いたしました。そして「もう今後は腹を立てぬようお誓いしますので、妙法を唱えてさすってください」と申しますので、しばらく妙法を唱えてさすってやりました。まったく不思議です。まもなく悪寒も止み、腹痛も止まり、三十分程過ぎると全快しました。「釈尊が『迷えば悪人、悟れば善人』と申される」と会長さまから聞いていましたが、このように〝迷って精神修養を怠って堪忍を破るとひどい目に遭う。また悟ればすぐ全快して守護をしていただける〟ということを体験いたしました。迷うということは全く恐ろしいことだと思いました。修養しなくてはならないのは堪忍だと思いました。息子はお陰で名古屋港駅に採用していただきました。合格させていただいたことは、実に会長さまより精神修養のご指導にあずかっていたお陰です。また妻の急病が薬一服呑むことなく全治したこと。本当に私の心の中は喜びに満ちてうれしいことであります。この喜びを皆さんに申し上げたいと思いまして、恥を忍んでお話しする次第であります。

主人とともに歩んで

和泉支院　一宮　征子（平成30年）

平成9年10月、主人が二度目の失業になりました。当時私は信教師としてお務めさせていただいておりました。主人は強い信仰心はなくても、私がお寺に行く時は快く送り出してくれていました。私がお墓の掃除をしておりますと、主人も手伝ってくれ、次第に三徳の教えを心掛けるようになってくれました。

翌年3月、主人が交通事故を起こし、年配の男性が亡くなってしまいました。この時の私達の動揺は、計り知れませんでした。けれども徳積みをすることしか道がなく、上田上人に「つらい時、自分のことはちょっと横に置いておき、ほかの人の役に立つことを心掛けて徳積みをするとよい」と教えられました。毎日お題目を唱え、主人は一日に何枚もその方の追善供養のために写経をし、二人で公共トイレの掃除、道端のゴミ拾いなど思いつく限りのことをいたしました。

ちょうどその折、夫婦で指圧を学ぶようになり、五カ月後、自宅で開業することになりました。患者さん一人ひとりに対し、心の中で神通掛けをさせてもらう気持ちで治療を心掛けました。夫婦でいろいろと話し合い、徳積みできることを喜びました。また、亡くなった相手の方へずっとお参りさせていただいていましたが、三回忌にうかがった折、奥さまから「もうお参りに来てくださるのは今日で終わりにしてください。これからは一宮さんご自身の人生を歩んでください。一宮さんで良かったです」と言ってくださったことに夫婦で涙しました。その後もずっと相手の方の追善供

養をさせていただいています。

その後、上田上人より主人に浄心道場へのお誘いの言葉があり、入行させていただきました。この時ようやく苦しかった事故のことが、仏さまのお導きで主人の浄心道場入行という形となり、お徳をいただけたと思いました。

夫婦で行う徳積みには幸せを感じましたが、〝相手の奥さまは、今一人でどんなに悲しい思いをしているのだろう〟と思うと胸が苦しくなり、〝山首上人さま、どのように悟ればよいでしょうか。どうか教えてください〟と、何度も心の中で叫びました。御開山会に参拝した折、三先師、日達上人さま、山首上人さまのお徳をいただいて、今まで胸の中にあったものが流れていくようで、思わず涙があふれ、心から感謝申し上げました。

それからは人に喜んでもらえるように、夫婦で仕事と信教師の務めに励みました。仕事も少しずつ人数が増えてきたことで生活ができるようになりました。やっと心穏やかに過ごす日々がまいりました。

その後平成27年11月、主人が脳内出血で永眠いたしました。私はこのご法に出会い、主人とともに生かされたことを幸せに思っています。これからも感謝と精進をお誓いいたします。

福祉に生きる

社会福祉法人 昭徳会
特別養護老人ホーム小原安立・ケアハウス高浜安立・養護老人ホーム高浜安立の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。鈴木修学先生が築き上げた福祉の新たな未来を切り開くために…

今を正しく生きること

小原安立　介護員　井原　悠太

自分がこの本を読んで思ったこと。それは宗教と、行動する人のすばらしさでした。

仏教感化救済会の創設者・杉山辰子先生に出会い、仏教の世界に入った鈴木修学先生。そこから仏教の教えをもとに福祉を築きました。

この本を読むまでは、〝宗教の信仰だけで果たして人は救えるのだろうか〟と疑っていました。もともと自分の父母は無宗教である影響もあり、自分は無宗教でした。その結果、〝宗教があっても、結局は現実世界での救いはないだろう〟と考えていました。しかし、仏教感化救済会の杉山先生や修学先生は全く違っていました。

杉山先生が法華経の理念をもとに、現実世界で救う活動を開始し、修学先生も数多くの人を救うべく立ち上がっていました。

ただ法華経をやみくもに唱え、お話をするのではなく、「功徳を積むことで罪障を帳消しにする。困っている人を助け、法華経を信仰する善人をつくり、仕事や立場を通して人の喜ぶことをして導く」と話した杉山先生。

これを知った時、大きな衝撃を受けました。法華経の教えは、〝現実を救おうとする教えであること。来世ではなく、今を正しく生きることである〟と。そして〝学んだことを広め、多くの人に今を正しく生きることの意味を理解してもらい、人々の今を救おうとしている〟こと。〝このようなすばらしい教えがあるのか〟と感銘を受けました。

修学先生も法華経の教えや、「不幸な人々を助け、人々を幸せに導くことに命を捧げなさい」という杉山先生の教えで、ハンセン病患者さんや戦災孤児、知的障がい児を助け、法華経の教えを広めていきました。

杉山先生と修学先生のめざした福祉が今も形になって残っています。

今の時代にも救いを求める人々がいます。そういう人々に法華経の教えに基づいた、今を正しく生きることの意味をどう伝え、どう後世へつないでいくか。

私が今生きている中での役割は、〝もしかしたらこの教えを後世に伝えていくことかもしれない。もしそうだとしたら、自分はどうすればよいか。そのことをこれからじっくりと考えていきたい〟と思いました。

思いやりの気持ちを見習いたい

小原安立　介護員　後田　栞

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで、修学先生の生き様や昭徳会の歴史がわかりました。入社式の頃は話を聞いていても正直わからないことが多かったのですが、時間をかけてゆっくり読むと理解が深まりました。

「ハンセン病」というだけで差別されたり、隔離された人々を修学先生が助けたこと。それが今の「福祉」に到ると考えると、修学先生をとても尊敬します。一人の「助けたい」という強い気持ちが周りの人達に優しい思いやりの気持ちを育ませ、病気のある人もない人も、ともに過ごすことができたのだと思います。

また、日本福祉大学を設立することで、障がい児・障がい者・高齢者福祉に対する人々の考え方が変わり、そこで専門的に学ぶ一人ひとりの意識も変わったのだと思います。私は福祉系高等学校に通っていました。これから専門性のある学校がもっとたくさん作られるとよいと思います。

修学先生は人間性がすばらしく、生きざまが素敵だなと感じました。「一人でも誰かを助けたい」という気持ちや「幸せにしたい」という思いやりの気持ちを見習いたいと思いました。仕事をしていると、自分のことしか考えられなくなったり、追い込まれたり、不安になることもありますが、初心に戻って「この人を幸せにしたい」とか「助けたい」という相手を思う気持ちを常に持てるように努めていきたいと思います。

この本を読むことで、自分を見つめなおす良い機会になりました。自分がするべきことを見出し、仕事に励みたいです。

人のために心から動く

小原安立　介護員　村上　エミ

福祉施設に従事し、数年が経ちました。この本を読み、弱い立場にある人々の真の幸福のために修学先生が行動された姿に心が打たれました。

修学先生はハンセン病患者さんの介護と施設運営に始まり、日本福祉大学の開学まで、60年という人生においていろいろなことを成し遂げられました。修学先生は杉山先生と出会い、すべてにおいて他人の幸福のため、どんな困難にもくじけることなく進まれました。

まず、ハンセン病患者さんの療養所では、妻のみつさんと力を合わせ、治療や介護、経営をされまし

た。病気を理解してもらうために、協力を訴え続け、寄付を募りました。「どんたくが見たい」という患者さんの願いを叶えるために、大切な宝物を売り、着物を質に入れることさえしました。患者さん達はとてもうれしかったと思います。そこでの経験から得た教訓が、その後の福祉事業の指針となっています。

杉山先生が亡くなった後、「慈悲・至誠・堪忍」の三徳の教えを人々に説かれています。

「人に親切にしましょう」「何事も精一杯の力で取り組もう」「人を必ずほめよう」「今日一日だけは堪忍しよう」…わかっていても、なかなかできることではありません。自分のことばかり考えている人も多いと思います。私自身もそうです。

人のために心から動き、人の幸福のために人生を送られた修学先生のようには、とてもできないけれど、これから先自分自身も三徳を実行し、そして子どもにも伝えていきたいと思いました。福祉施設で働く職員として入居者やご家族の幸福のために、人のために心から動き、寄り添うことのできる人になりたいと思いました。そして、私にできることを精一杯の力で取り組んでいこうと思います。

三徳の精神を仕事に活かします

ケアハウス高浜安立　介護員　岩月　真理子

私の職場で月に一度お上人さまのご法話があり、その中で「慈悲・至誠・堪忍」という言葉を知りました。

「慈悲」は、人々の憂いや悲しみを自分のこととして受け止め、自らの喜びを他人に分け与える優しさの心。

「至誠」は、間違った行いや悪い心を退け、世のため人のために自らを役立て、優しさをたゆみなく持ち続ける心。

「堪忍」は、腹を立てず、恨みや怒りを捨て去り、理不尽な出来事からも逃げ出さず、他人を赦す広い心。

修学先生は杉山辰子先生から教わったこの三徳を実行しました。

私は、この本を読んで言葉の意味を理解できましたが、実行することは大変むずかしいことだと思いました。

例えば、「足腰が痛い」と言われる入居者さんのことを、自分のこととして受け止め、介護しているでしょうか？「足腰が痛い」という言葉に私は「よく働いてきたからね」と言ってあげることしかできません。せめて少しの間でも痛みを忘れられるように、楽しい催しを考えるのが私の役割だと思っています。

私の職場では、所長さんが「我慢できないことがあったら、事務所でしゃべってから家に帰るように。家庭に持ち帰らないように」と言ってくださいます。その言葉で自分が何に怒っていたのかを忘れてしまうのです。所長さんは、職員だけでなく、入居者さんからも不満の言葉を聞くこともあるでしょう。でも、堪忍の心で気配りされています。身近に修学先生のような人がいらっしゃることに気づきました。

修学先生が「私の役割とは何でしょう。私は人生の意味を求めています。どうしたら幸せになれるのか、日々考えています」と尋ねると、杉山先生は「幸せになりたければ、幸せの種をまくことが必要です」と答えられました。

修学先生は、ハンセン病の人達、罪を犯した少年達、戦争孤児など不幸な人々の手助けをし、その人達が幸せに暮らせるように尽くした方でした。

私もお役に立てるようにやっていきたいです。

心に寄り添う看護師になりたい

ケアハウス高浜安立　看護員　磯貝　汐里

私がこの本を読んで印象に残ったのは、ハンセン病療養所の過酷な状況についてです。

当時、ハンセン病は感染力の強い不治の病と考えられていて、罹患者の家族も偏見の対象とされていたそうです。しかし実際は、感染力は弱く遺伝もしないし、現代に至っては治療法も確立されており、適切に抗菌薬等を服薬して療養すれば治る病気となっています。

ただ当時は病気についての研究がそこまで進んで

おらず、発病すると手足や顔が変形してしまい、外見上も変化してしまうため、より恐れられていたようです。そんな時代に罹患した患者さん達は、本当に日々苦しい思いをしていたのだと思います。周囲から隔絶され、家族にさえも縁を絶たれる状況になり、いわれのない差別や偏見に苦しむことになったのは、人々のハンセン病に対する知識のなさ、無理解によるところが大きいと思います。罹患者を隔離し、閉じ込めることが解決につながるわけではなく、病気を調べ正しく理解することが、まず必要だったのだと思います。現在、ハンセン病の新罹患者が減り、治療法も確立されたのは、この状況を何とかしなくてはならないと考え、研究を進めた方達がいたからこそです。世間の風潮や慣習をあたりまえのものとは思わず、それが本当に正しいことなのか、これからどうしていくべきなのか、自分で考えを持つようにしていきたいと思いました。

また、病気に関する正しい知識を自分が持つだけでなく、それを周知していくことも大切だということがわかりました。正しい知識を持っていたとしても、それをみんなが持っていなければ、また偏見や差別につながることになります。みんなが理解できるようになるには、どう働きかけていったらよいかを考えることも大切だとわかりました。

もう一つ印象に残ったのは、ハンセン病患者さんとの関わり方についてです。修学先生やみつ夫人は、病気を持った人であっても分け隔てなく接し、生活をともにしていました。病気のことが詳しくわかっていない状況で、自分も罹患してしまうかもしれないのに、このように行動できるのは本当にすごいと思いました。家族にさえも縁を切られてしまった人達にとって、自分を同じ人間として尊重して接してくれる人がいることは、とても心の支えになっていたと思います。病気に対する治療は、傷の手当などの身体的なものだけではなく、生きていく支えとなるように心に寄り添うような精神的な援助も大切だということを学びました。

見た目だけで人を判断するのではなく、相手の立場に立ち、その境遇や気持ちを考え、改善に向けて一緒に歩んでいけるような看護師になりたいと思い

ました。

自ら実践した修学先生を尊敬します

養護老人ホーム高浜安立　看護員　大嶋　充世

鈴木修学先生とは、いったいどんな人だったのだろうか。継ぐことのできる菓子問屋を営む家庭であったならば、恵まれた家に生まれたのだろう。多くの人に囲まれて、良い学校教育、家庭教育を受けてきたと思われる。幼少期より学業に秀で、積極的で明るい性格と誠実で勤勉な気質も兼ね備えていたのは、もって生まれたものもあるだろうが、成長の過程で習得したものが大きいのではないだろうか。

では、人は自分が恵まれていれば、誰でも人に施せるものだろうか。いや、そうではないだろう。もしかしたら、修学先生のご両親が子ども達に愛情を注ぎ、他人に対しても惜しみなく施すことのできる人だったのかもしれない。その姿を見ていて、修学先生はまるであたりまえのように人に施しができたのかもしれない。修学先生の人物像や、その背景を想像するだけでワクワクする。そして想像でしかないが、修学先生は人にも恵まれていたのではないだろうか。

出会う人やその時期は、人生においてとても大切なものだと感じている。修学先生と杉山先生の出会いは、叔父さんからたまたま勧められたものであり、会いに行くことを選択したのは修学先生自身だった。この出会いこそ、まさしく修学先生の人生を変えるものであり、救われた瞬間だったと思える。みつさんが妻でなければ、修学先生を最後まで支えることができなかったかもしれないし、修学先生が困難を乗り越え大業を成し遂げられなかったかもしれないとさえ思う。

出会いは偶然も必然もあるだろうが、人のつながりは別だと思う。人を惹きつけるのはやはり人だと思う。誰だって魅力的な人に惹かれるだろう。真面目に、一生懸命に、勤勉に、自ら質素倹約に努め、人にやさしい修学先生の周りには、たくさんの人が助けを求め、たくさんの人が助けてくれたに違いない。ハンセン病療養所、臥竜山の農業指導、育児院

開設、駒方寮の設立と保育園・診療所開設、戦災孤児の収容、知的障がい児の受け入れ、日本福祉大学開学は、多くの理解者の協力があってこそだろう。修学先生の人から好かれる所は、偉い人になっても命令するのではなく、誰にでも協力を求めることのできる人間性にあったのではないか。

私は、高校の頃から「誠をもって勤倹譲を行え」という訓が好きで意識して生活してきたつもりだ。宗派は違っても、誠実な言動、勤勉・勤労、倹約の精神、譲り合いの心、感謝の大切さを教えているのだと感じている。

この本を読んで、修学先生の教えも同じように説いていることがうれしく、またそれを自らが実践して見せた姿を想像し、本当に尊敬する。自分を振り返る一冊だ。

『日本の福祉を築いたお坊さん』日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・800円（税別）本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

特別養護老人ホーム　小原安立
●愛知県豊田市沢田町座内22
●入所定員80名。ショートステイ6名
◆高齢者グループホーム小原安立6名。
◆小原安立共用型デイサービス事務所3名
●職員　正職員41名、パート職員等38名

ケアハウス高浜安立
●愛知県高浜市芳川町1－2－48
●入所定員50名　●職員　正職員12名、パート職員等14名

養護老人ホーム高浜安立
●愛知県高浜市芳川町1－2－73
●入所定員50名　●職員　正職員13名、パート職員等3名

●介護員＝入所者の食事介助、排泄介助、入浴介助、移動介助、清潔・整容介助を主に担当。国家資格である介護福祉士の取得者が望ましいが、介護員として特に資格は必要としない。介護員として3年間の実務経験と実務者研修の修了で国家資格である介護福祉士の受験が可能となります。
●看護員＝入所者の健康管理、健康指導や健康相談、入退院や通院の援助、医師との連携を主に担当。看護師の資格が必要。

※本稿は平成30年7月にいただきました。（掲載順不同）

学習療法で認知症予防

写真提供・昭徳会

ケアハウス高浜安立

～学習療法で認知症簡易判定検査の点数が維持・向上～

現在、ケアハウス高浜安立では、11名の方が学習療法に参加されています。学習療法とは、簡単な計算問題や文章の音読などの教材を利用して、認知症高齢者とスタッフが楽しく話しながら行う『非薬物療法』です。「脳トレ」でおなじみの東北大学の川島隆太教授の研究で、簡単な問題を解いている時、脳の前頭前野が最も活性化することが実証されています。むずかしい問題をひたすら考え解くのではなく、楽しく交流しながら簡単な問題を解くことが学習療法の特徴です。

学習療法は、読み書きや簡単な計算が脳のトレーニングとなり、作動記憶（短期記憶の一種）を鍛えることができます。作動記憶を鍛えることにより、さまざまな情報を記憶した上で、物事に対処することができるようになります。さらに、暗記力や計算力等も一緒に伸びやすいこ

とが確かめられているため、認知機能の改善に適しています。

認知症高齢者への効果としては、前頭前野の活性化や前頭前野に関わる能力が回復し、話す言葉が明瞭になる。また、継続的にほめられることで、自身の存在を認められていることが認識でき、精神状態の安定が図られます。学習療法を実施した認知症高齢者は実施していない人に比べて、認知症の簡易判定検査の点数が維持もしくは向上しています。

学習療法を取り入れているケアハウス高浜安立では、パート職員を含め、介護職員全員が学習療法実践士の資格を取得しています。また、入居者さまの日々の生活の中に学習療法が浸透されており、「私の順番はまだかしら?」と、開始前から待たれている方や、「今日もありがとう!楽しかったわ!」と、学習療法を楽しんでいらっしゃる方もおられます。学習療法に継続して参加されることで、認知症の予防だけでなく、閉じこもりがちな生活にメリハリを持たせることができています。職員にとっては、日々の業務の中で、毎回じっくり話すことは意外にむずかしいことですが、学習中の30分間だけは、入居者さまとしっかりと関われる貴重な時間として活用させていただいています。また、経験の浅い職員にとっては、学習療法の教材を使用したふれあいが、自身の成長にもつながる貴重な時間となっています。

現在は、他の学習療法導入施設の学習療法担当者との学び合いの場を設け、入居者さまがより楽しく学習療法に参加できる方法や、ご家族との関わり方など、さらなる発展につながる取り組みも行っています。

ケアハウス高浜安立　グループリーダー(介護員)　**中平　博敏**

ベトナム・ハノイ大学と大学間連携協定を締結

～日本福祉大学

写真提供・日本福祉大学

このたび本学は、ベトナムを代表する国立の名門・ハノイ大学と大学間連携協定を締結し、8月28日にハノイ大学にて締結式が執り行われました。これで、海外の大学との協定締結は14校目となります。

ハノイ大学は、日本語学部をはじめ、多くの外国語教育がベトナム国内最高レベルとの評価を受けています。語学のほかに国際関係、情報工学、経営・観光、ベトナム学等の学部を備え、学生数約1万2千人、留学生約6百人を擁する総合大学です。今回の協定の主なねらいは、本学国際福祉開発学部の「日本語教師養成課程」で学んでいる学生が、ハノイ大学日本語学部で開講されるインターンシップ（就業体験）プログラムを受講することにあります。

近年、日本語教育に対してのニーズが高まっています。国内では、留学生や外国にルーツを持つ子ども達、製造業や看護・介護の職場で働く外国人など、年々増加傾向にあります。海外でも、ベトナムやタイなどで、

日本語を学習したいと考える人が増えているというデータが示されています。そういった方々に対し、日本語という言語を体系的に教え、さらには日本文化を伝える「日本語教師」をめざす学生達は、一年次より「日本語学」「日本語教育法」や「異文化理解」「多文化共生論」等の科目を学び、四年次には日本語学校などで実習を行います。

早速この秋より二年生13名が、順次ハノイ大学に約1カ月滞在します。日本語学部での日本語授業にアシスタントとして参加し、海外での日本語教育の現場を直接体験することになります。また、11月29日には、ハノイ大学より学部長と副学部長を東海キャンパスにお迎えし、多文化共生社会のあり方をテーマに「日越国際シンポジウム」を開催します。今後のさらなる関係強化をめざして、教育・研究交流について議論する予定です。

国際福祉開発学部では、この春、ベトナム・中国・ネパール・タイ・フィリピンからの留学生12人を迎えました。昨年、東海キャンパスに開設した「日本語教育センター」が中心となって、日本語教育や学習・生活の支援にあたっています。日本語教師養成課程の学生も支援に加わっており、「留学生支援バディ（友人・相棒）」と呼ばれています。入学直後から、大量の日本語の情報を前に苦闘している留学生に対し、書類の記入の仕方、授業のアドバイスなどを行っています。日本語初心者に対してのコミュニケーションの取り方や、やさしい日本語を使ってわかりやすく説明する方法など試行錯誤を繰り返し、双方がともに学び・ともに成長する場面が、日々繰り広げられています。留学生も孤立することなく、順調に学生生活を送っています。今後、留学生の受け入れをさらに増やしていく計画ですので、留学生支援バディの存在は欠かせません。

日本語教育センターでは、留学生のほかにも、介護施設や企業で働く外国人技能実習生に対する日本語・日本文化教育のプログラム開発に取り組み、昭徳会とも連携して、現場のニーズに対応したプログラムの提供もめざしています。

「世界の人々の持続可能な幸せのために、国際的なチームで協力して地球市民としての責任を果たすことのできる人材の育成」を掲げ、今年開設10周年を迎えた国際福祉開発学部と、日本語教育センターを軸に、「ふくしの総合大学」として社会から求められているグローバル化の課題に、引き続き取り組んでいきます。

東海キャンパス事務部長兼国際課長　**中村　聡**

幸せの種まき＝感謝と親切

今ないものを不足に思うより
今あるものに感謝しましょう

普段あってあたりまえと思っているものも、
よく考えればありがたいことばかりです。

大乗山　法音寺

編集後記

日頃はあまり意識しないことですが、〝法音寺は他のお寺と何が異なるのだろう？〟と考えてみると、実はいくつか特徴があることに気づかされます。社会福祉事業や社会福祉教育を支援しているという「信仰と福祉」を理念に掲げるお寺は、確かにあまり例がないのかもしれません。しかし、それ以外にも異なる面があるようです。

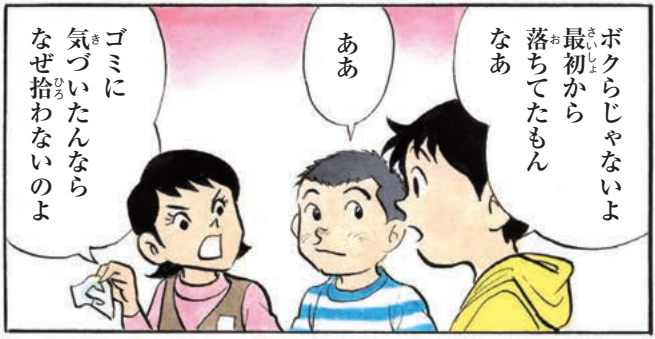
あくまでも単なるイメージですが、多くの一般家庭では「檀那寺」はあっても、葬儀や法事でしか接触することはなく、その結果信者さん同士が積極的に交流するということはあまりないように思うのです。しかし、法音寺は信者さん同士が「法友」という絆でつながっています。今月の「支院だより」をお読みいただくと、その凝集性が伝わってきます。「敬老会」の話題が多かったからかもしれませんが、「懐かしい友に再会できてうれしかった」というレポートを読むにつけ、法音寺では当然のようによく目にする光景も〝ひょっとしたら、在家仏教・法音寺の特性なのでは？〟と思わされます。

どのお寺も仏さまの教えを学ぶ道場の筈ですが、法音寺はさらに「法友」同士がともに学び、ともに功徳を積み、ともに支え合い、ともに喜び合うという要素がとても色濃いお寺であるような気がいたします。

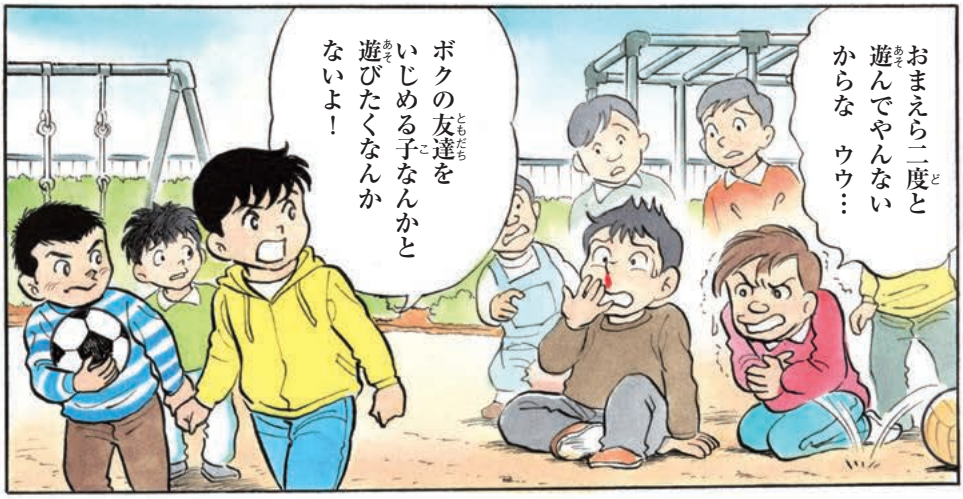
ひまわり #70

ありがとう

竹中 淳



おーい
オレ達も
入れてくれよ
おう
入りな
ショウ
おまえは
入らなくて
いい！
なんでショウだけ
仲間はずれに
するんだよ
そうだよ
ヘタだし
弱いヤツは
いらねえよ
ホラ
早く
どけよ
じゃま
じゃま
!!
何する
んだ!!
大丈夫
か？
この
～
うう～
アッタマに
きた！
オレの
友達を
いじめる
なんて
許さん!!


おまえら二度と遊んでやんないからな　ウウ…
ボクの友達をいじめる子なんかと遊びたくなんかないよ！

ハイティッシュつめときなよ
あ

どんな理由であれ暴力は絶対にいけません
まして、相手の子を傷つけるなんて反省しなさい!!

蓮くん
タケルくん
ボクのせいで…
ごめんよ
いいよ気にすんな

でも　ボク…
うれしかった
ありがとう

じゃあな
バァ〜イ

なんなんだろう？
叱られてる時って
体中がゾゾッと
寒くなって
きやがる
また今日も
叱られたね
オレ達だけが
悪いわけじゃないのに
なんで蓮はいいわけ
しなかったんだ？
うん…
やっぱり暴力は
いけなかった
かなって…
オレはカッとなる
タイプだけど
蓮まで怒るとは
思わなかったな
ショウくんは
大切な友達だもん
そりゃ怒るよ
オレ達いつも
叱られてばっかで
「悪い子」なんかな？
たまには
ホメられ
てぇ～
そうだね
あんた達は
悪い子なんか
じゃないさ
やさしい
いい子よ
私がよーく
知ってるわ
ば　ばあ
ちゃん！

いつからいるんだろ？
あんた達ほめてもらいたいんだ！
今日あんた達いじめられてたショウくんを助けてあげたんでしょ？
ショウくん喜んでたんじゃない？
ありがとうっていってたな
うんいってた
ボクうれしかったありがとう
「ありがとう」って感謝してるのよそれってほめてくれてるんじゃない？
「ありがとう」って言葉には…
「あなたは私に良くしてくれて幸せです」ってそんな意味があると私は思うのよ
どんな小さなことでも困ってる人がいたら良くしてあげなさいきっと喜んでくれるわよ
そうか…ショウ　本当にうれしそうだったもんな
うん　ボクもあの笑顔見てうれしくなった！
タケルくん気をつけてね
は～い蓮　荷物持ってやれよ

あ…
あの人！
ビィー
ビッ
ビッ
ボウヤ達
ありがとう
助かったわぁ
ありがとう
なんだか体中が
ホワ〜って
あったかくなった
ような気分だよ
そうそう！
オレもだ
タケル！
ん？
ガッ
ガッ
フゥ…
トン
トン

おじいさん
いつも一人で
たいへんだね
この草を
引くんだろ？
オレ達
手伝うよ
えっ…
キミらが？
そりゃ
うれしいな
キミ達は
ここの
小学校かい？
そうだよ
トルルル…
トルルル…
もしもし
…
もうそんな
時間か
わかった
キミ達！
私は用ができて
行かなきゃならないんだ
キミらも
帰っていいからね
手伝わせて
すまなかったね
行っちゃった
どうする？
もう少し
だやっちゃお！
え!?なにを
されてたん
ですか？
おー
きれいに
なったぁ！
へへッ　明日
おじいさん
きっと驚くゾ

校長
皆さん
おはよう
ございます
昨日　とても
うれしいことが
ありました
私は一人で
草引きを
していたのですが
わが校の
男子児童二人が
手伝ってくれたのです
校庭の生垣の周囲
きれいでしょ？
あれ昨日の
おじいさんだろ
校長先生か？
ああっ
まちがいない
あのおじいさんだ
校長先生
だったの
かよ〜
しかし
お恥ずかしながら
私はあわてて
その二人に
お礼を
言えなかった
そこで今日は
あらためて
ピタ…
昨日の
二人の少年に
言いたい
ありがとう

おしまい

書籍のご紹介

法音寺を知りたい方へ

戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが
『法音寺物語 上・中・下』
法音寺広報委員会　企画
中央法規出版 刊
B5版　平均九六頁総カラー
定価 各巻一、〇〇〇円（税別）

法音寺の教えを学びたい方へ

現代生活の指針
鈴木 修学 著
四六判／三四五頁
定価 一、〇〇〇円（税込）

続 現代生活の指針
鈴木 修学 著
四六判／三五二頁
定価 一、〇〇〇円（税込）

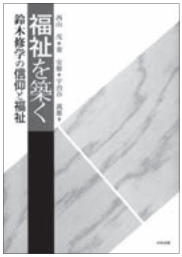
仏教を学びたい方へ

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経
淺井 圓道 著
山喜房佛書林 刊
四六判／二百二頁
定価 一、八一四円（税込）

妙法蓮華経略義
鈴木 修学 著
青山書院 刊
A5版／八六三頁
定価 六、〇〇〇円（税込）

福祉を学びたい方へ

日本の福祉を築いたお坊さん
星野 貞一郎 著
中央法規出版 刊
A6版／一六八頁
定価 八六四円（税込）



福祉を築く
西山 茂／秦 安雄／宇治谷 義雄 著
中央法規出版 刊
A5版／二二三頁
定価 三、六二八円（税込）

知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乗山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日
毎月7日・17日・27日
午後1時30分

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 **昭 徳 会**

■児童養護施設
駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設
小原学園

■障がい者支援施設
小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム
安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業
授産所高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム
ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム
養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム
慈泉寮
かりん

■保育所
駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 **日本福祉大学**

■日本福祉大学大学院
■日本福祉大学中央福祉専門学校
■日本福祉大学
■日本福祉大学付属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp

法音・平成30年11月号・No.589・平成30年11月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社